研究に関する情報公開について

研究課題	感覚性運動失調を特徴とする神経疾患に対する振動刺激の効果
研究機関の名称	社会医療法人友志会　リハビリテーション翼の舎病院・リハビリテーション科
研究責任者	長岡正範
研究対象者	下記研究期間に当院にリハビリテーション訓練の為に入院した患者のうち、運動失調を特徴とする者
研究の目的・意義	すでに観察し報告した振動刺激の延髄外側症候群（ワレンベルグ症候群）による側方偏倚に対する改善効果が、他の感覚性運動失調患者でも観察されるのかを明らかにする。振動刺激は日常生活でもマッサージャーで疲労回復に用いられているが、得られた効果が非特異的な効果ではないのか。患側への刺激、健側への刺激、身体のどの部位への刺激が有効であるのか。効果の持続時間、反復実施した場合、効果の蓄積が期待されるかなどの疑問がある。本研究では振動刺激が他の感覚性運動失調の運動失調に有効であるか否かを、単回の治療で確認し、効果が見られた場合は、通常訓練＋ハイブリッド訓練（振動刺激を加えて通常訓練を実施する）を通じて、リハビリテーションにおける治療手段としての可能性を検討する。 運動失調のリハビリテーション訓練では、運動学習を通して正確な運動を達成することが求められるが、運動の結果（knowledge of results; KR)を視覚を通じて運動結果のフィードバックを受ける以外に、運動肢からの運動に関連する感覚入力を得ることが出来れば運動学習は更に効果的と考えられる。
研究方法	単回の介入（振動刺激）による評価項目（下記①から⑤）の変化を観察する。単回の介入で効果が見られた場合、非介入（振動刺激を用いない）と介入（振動刺激と通常訓練を併用したハイブリッド訓練）を行って効果の持続性、自然回復と異なることを証明する。 固有感覚情報増強のためにマッサージャーを身体部位（患側あるいは健側上肢・下肢・体幹）に10～15分間あてる。入院中の複数時点で反復する場合もある。
研究期間	2026年4月1日～2031年3月31日の5年間
研究に使用する情報	主要評価項目 ① 指鼻試験 ② 膝踵試験 ③ Romberg試験 ④ Mannテスト（タンデム姿勢） ⑤ 3m Timed up and Go (TUG) 副次評価項目 被検者の自覚的評価 診断に関連する病歴、治療歴など医学情報
研究に関する情報公開の方法	対象の方でご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、 この研究の資料などを閲覧または入手することが出来ますので、お申し出ください
個人情報の取扱	本研究は、基本的に予め患者さんに説明し同意を戴いてから行う前向き研究ですが、一部、入院後すでに測定していたデータを使用する場合があります。このように診療録から抽出する情報は、個人が特定できないように、研究責任者が病院ID、氏名、生年月日の情報を削除し、個人の特定できる情報を新たな符合に置き換えた上で研究に使用します。データは研究責任者がリハビリテーション科内で厳重に保管します。新たな符合と個人を特定できる対応表を同様に厳重に保管します。また、研究成果は、個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します。
研究組織名称	社会医療法人友志会　リハビリテーション翼の舎病院
問い合わせ先	【研究責任者】 社会医療法人友志会　リハビリテーション翼の舎病院　リハビリテーション科 長岡正範 〒323-0028 栃木県小山市若木町1-1-2 電話0285－37－6107